

「いちばん偉い者」

2022年03月04日

それは、弟子たちに教えて、「人の子は人々の手に渡され、殺される。殺されて三日の後に復活する」と言っておられたからである。弟子たちはその言葉の意味が分からなかったが、怖くて尋ねられなかった。(マルコ福音書9章31節～32節)

イエスは座って、十二人を呼び寄せて言われた。「いちばん先になりたい者は、すべての人の後になり、すべての人に仕える者になりなさい。」そして、一人の子どもを連れて来て、彼らの真ん中に立たせ、抱き寄せて言われた。「私の名のためにこのような子どもの一人を受け入れる者は、私を受け入れるのである。私を受け入れる者は、私ではなくて、私をお遣わしになった方を受け入れるのである。」(マルコ福音書9章35節～37節)

主イエスの宣教団はガリラヤ地方を通られたが、主イエスは人に気付かれることを避けられた。「それは、弟子たちに教えて、『人の子(主イエス)は人々の手に渡され、殺される。殺されて三日の後に復活する』と言っておられたからである。」主イエスはご自分の殺害と三日目の復活について二回目の予告をされた。しかし、弟子たちは殺害と復活について、何を言っておられるのかを理解できなかった。また、怖くて尋ねることもできなかった。人は誰でも、聞きたいことや耳障りのよいことは耳に入るが、自分の意識にないことや聞きたくないことは、聞いても耳に入らない。主イエスは心を込めて、これから起こる重要な十字架と復活について予告されたが、弟子たちには全く聞こえていなかった。著者は、主イエスと弟子たちの間には、結びつかない心の距離があったと伝えている。

一行はガリラヤ湖畔のカファルナウムに来了。家に着いてから、主イエスは弟子たちに、「道で何を論じ合っていたのか」と尋ねられた。弟子たちが歩きながら、激論を交わしていたので、問われたのである。彼らは黙っていた。激論していたのは、自分たちの中で、誰が一番偉いかを言い合っていたからである。主イエスは「何を論じ合っていたのか」と尋ねておられるが、弟子たちが論じ合っていた内容はご存じだったのである。腰を下ろし、12弟子を呼び寄せて言われた。「いちばん先になりたい者は、すべての人の後になり、すべての人に仕える者になりなさい。」主イエスは先ほど、権力者たちの手に渡され、殺されると苦難の死を予告されたが、弟子たちは全く聞いておらず、誰が偉いか、誰が高い地位を獲得できるかを論じ合っていた。主イエスの予告は分かってもらえず、野望を抱いて、論じ合うことにどれほど悲しみ、深く孤独を思われたらうか。人は、神の思いを知らず、途方もないことを言い、行っているのが、主イエスと弟子たちの会話から見えてくる。

人は皆、上を望み、ひたすら上に上りたいと懸命である。しかし主イエスは、一番先になりたい者は、全ての人の後になり、全ての人に仕える者になりなさいと言われる。これが、神を信じる者が生きる新しい律法である。「そして、一人の子どもを連れて来て、彼らの真ん中に立たせ、抱き寄せて言われた。『私の名のためにこのような子どもの一人を受け入れる者は、私を受け入れるのである。私を受け入れる者は、私ではなくて、私をお遣わしになった方を受け入れるのである』」と言われた。親にとって子どもは宝であるが、当時は、子どもは無力で、律法の外にある者として疎外されていた。主イエスは、その子どもを受け入れる者は、私を受け入れることであり、私を受け入れることは、私をお遣わしになった方、神を受け入れることであると言われた。最も小さい者を受容することは、主イエスと、また、主イエスを通して神と共にある者とされるのである。